

インドネシア裾野産業向け CAD・CAM 技術者の育成 ～ JICA 案件化調査 採択～

CAD・CAM^(※)ソフトの会社「コダマコーポレーション」(都筑区)は、2012年6月頃からインドネシアの市場開拓を視野に、同国金型工業会からの視察の受入れや現地代理店候補の発掘などに取り組んできました。さらに調査を進めていくために、JICAの「中小企業海外展開支援事業・案件化調査」に取り組むこととし、効果的な提案書を作成するためにIDECに相談しました。

インドネシアには既に約1000社の日系製造業が進出していますが、部品の現地調達率がまだ低いのが現状です。特に、“ものづくり”の根幹となる金型は、日本などからの輸入に依存しており、進出した企業の課題となっています。

同国政府は工業化による経済発展

を目指しており、特に裾野産業の育成や中小企業振興を柱として掲げています。部品や金型の試作や製造は中小企業が担う分野であり、それらの設計・製造能力の向上を目指す同社のCAD・CAM技術の普及は同国の政策に沿うものです。

IDECは、25年度から「インドネシアサポートデスク」を設置し、同国への進出や事業展開に関する現地情報の提供、現地におけるビジネス活動の支援等を開始しました。同社に対し、インドネシアの裾野産業の実情と同国政府の方針を踏まえた提案書を策定するよう助言した結果、JICAの案件化調査に採択されました。

現在、同社と協力し、インドネシアでの事業展開に関心のある市内中小



インドネシア金型工業会ミッション受入れ

企業を対象に、現地での操業環境の実情や人材に関する情報提供、ネットワークの紹介等を計画しています。同社の調査結果が期待されます。

(※) CAD・CAM コンピュータを利用し、設計・生産を一貫して行う技法。computer aided design/computer aided manufacturing

詳細は、IDEC 国際ビジネス支援課 問 045-225-3730 までお問合せください。

儲かる農業への挑戦～中小農家の生産性を向上させる取組～

車両や船舶などの制御プログラムを開発しているMTS(港北区)は、その制御技術を農業にいかし、中小農家の生産性を高める取組を始めています。

2009年の農地法改正以降、企業や法人の農業参入が増加しています。しかし、新規参入は想像以上に難しく、失敗に至る事例も少なくありません。特にビニールハウス栽培は温度や湿度、光、CO₂濃度など、最適な生育環境の条件が場所や品目によって異なるため、最適値を見つけ出すことが非常に困難でした。

そこで、同社では作物の状態に着目。従来は温度や湿度などの生育環境を計測・管理していましたが、作物

の光合成量や水分量などを直接センサーで測り、そのデータを環境制御に活用する「予測制御」を開発しました。これにより高効率で計画的な生産が可能となりました。

事業化にあたり、ビジネスパートナーを求めてIDECの横浜ビジネスグランプリ2014に応募。ファイナルに進み、審査員のTNPパートナーズ呉社長から出資者の紹介を受けました。

その結果、ベンチャーキャピタルや大手企業から投資を受け、昨年10月にプラントライフシステムズを設立し、新事業をスタートさせています。現在は、より品質の良い作物を作るための成長プログラムを開発してお

り、完成すれば付加価値の高い農作物の生産が可能となります。

本事業は総務省の「ICTイノベーション創出チャレンジプログラム(I-Challenge!)」にも採択され、約9千万円の補助金を得ており、今後の成長が期待されています。



発想の転換で中小農家の生産性向上を図る

詳細は、IDEC 経営支援課 問 045-225-3714 までお問合せください。

■ Pick Up

地域資源をいかした新和菓子づくり ～本業を通じた CSR 活動～

CSR(企業の社会的責任)と聞くと、本業以外でのボランティアと捉えられがちですが、横浜型地域貢献企業認定制度では、本業を通じた全ての社会貢献もCSRと捉え支援しています。

山陽印刷(金沢区)は、「地域資源をいかした和菓子を作ろう」と地元の和菓子店5店に呼びかけ、地域ブランドのどら焼き「横濱・金澤べっぴん娘」を企画。1年半をかけ、2012年10月、商品化にこぎつけ、本業のノウハウをいかしてネーミングと包装デザインを手がけました。餡の味や色は

店ごとに趣向を凝らし、チョコレート風味の餡など、和と洋の調和を図った新和菓子が誕生しました。

同社では、他に若手芸術家との交流や子供向けアートワークショップなどを通じ、社員のデザインや企画力の向上など、本業への効果を期待しています。

横浜型地域貢献企業認定制度の認定企業は、現在342社に達し、IDECでは各企業の身の丈にあったCSRの実践に向けた事前相談のほか、認定後は各種経営相談にも応じています。地域、従業員、取引先など



新和菓子を企画した秋山桂子社長(中央)と5店の和菓子職人さん(タウンニュース社写真提供)

に対し、自社が社会的責任を果たしているかの振り返りの指標として本制度をご活用ください。

詳細は、IDEC ホームページ <http://www.idec.or.jp/keiei/csr/>

問 経営支援課 045-225-3714

製造現場の技術課題に専門家がおこたえますー技術相談事業ー

製造業の現場では、日々、様々な技術課題に直面します。相談を受けるとIDECの「技術アドバイザー」が、現場を訪問し課題に応じて迅速、的確な解決策を提案します。利用者アンケートでは8割の方が「助言が役に立った」と回答しています。

港北区の機械設計会社では、製品に原因不明の亀裂が生じ、技術相談を利用。アドバイザーは図面と製品の使用環境を調査し、金属特性に着目した助言をしました。原因究明の糸口をつかんだ利用者は、具体的対策

の検討に着手しています。

また、新技術を導入したいと考えている金沢区の工作機械メーカーは、社員の技術教育や、導入する技術の付加価値向上などについて技術相談を利用。アドバイザーが専門の研究者を紹介し、産学共同研究へと発展しました。

昨年度は、製品不具合の削減に向けた提案や生産設備のムダ取り、工業規格の認証など、94社にアドバイスを実施し、利用者から報告された売上増や経費削減などの経済効果は

総額6千万円にのびりました。

現在は46名のアドバイザーが、機械や電気、化学等の技術分野に加え、環境・省エネルギー分野など多様化する相談テーマに対応しています。

利用料金は年間3回(環境・省エネは5回)まで無料です。相談内容が決まっていなくても、担当の「テクニカル・アソシエイト」が課題の絞り込みからお手伝いします。お気軽にお問合せください。

詳細は、IDEC ホームページ <http://www.idec.or.jp/gijutsu/soudan/>

問 技術支援課 045-225-3733

中国・タイ・ベトナムの旺盛なニーズを横浜企業のビジネスチャンスに！

国内マーケットが縮小する中、中小製造業にとって成長著しいアジアの需要をどのように自らのビジネスチャンスにつなげるかが課題になっています。しかし、中小企業にとって海外進出はハードルが高いのが実情です。そこで、市内に拠点を置きながらアジアの旺盛なニーズを取り込むことができるよう、新たに「海外企業ニーズとのビジネスマッチング事業」をスタートしました。

この事業は、「中国、タイ、ベトナムの現地企業では対応できない技術や

製品のニーズ情報をIDECが収集し、市内中小企業に紹介し受注の促進を支援する」これまでにない試みです。これらの国々の裾野産業の実情はそれぞれ異なりますが、中国、タイでは自動化、環境・省エネ技術が、ベトナムでは高度な基盤技術の集積が不足しているといわれています。

IDECはアジアサポートデスクなどのネットワークを活用してこれらのニーズ情報を集め、市内企業とマッチングを行います。

既に、一部の市内企業は独自にア

ジアの国々から受注しています。この事業によって、より多くの市内企業の皆さまにアジアでのビジネスチャンスを拡大し、新たな「稼ぐ」モデルを作り出すことを目標としています。

これまで海外との取引経験がないという企業の皆さまにも、豊富な経験と実績を持った「海外ビジネスマッチングコーディネーター」4名が海外取引の交渉や契約などについて無料でサポートします。ぜひ、ご活用ください。

詳細は、IDEC 国際ビジネス支援課 問 045-225-3730 までお問合せください。

■ Pick Up

国の補助金を活用して資金力に乏しい発明家のアイデアを商品化 —ものづくりコーディネーター活動報告—

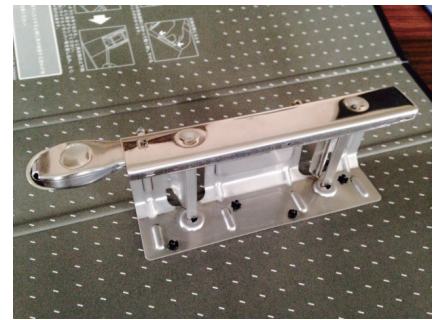
キョーワハーツ(港北区)はプレス加工と精密金型の製作が得意な企業です。ある日、同社の技術に着目した発明家から、新たに開発したファイルの金型を製作できないかという依頼がありました。このファイルは金具の開け閉めなしで台紙の差し替えが可能というもので、特許も取得済みでした。

発明家の依頼を受けた同社は金型の開発を引き受けることにしましたが、課題はその開発費でした。発明家には開発資金の用意はありませんでした。相談を受けたコーディネーターは、中小企業基盤整備機構の「新連

携事業」補助金の獲得を提案しました。「新連携」は2社以上の中小企業が連携し、市場が求める新しい商品やサービスを開発、提供することが条件になっています。

ファイルに必要な穴開けパンチの製作は他の事業者と協力を求めることとし、文具の専門商社などを通じてマーケティング調査を行った結果、生地の見本帳や図面集、法令の例規集など活用範囲は広く、事務機器メーカーからも採用したいという希望が寄せられました。

「新連携」の審査では特許取得済



書類の収納に革新をもたらすファイル

であることも評価され、補助金を得て金型は完成。現在、展示会発表の準備が進められています。

詳細は、IDEC 技術支援課 問 045-225-3733 までお問合せください。

グローバルガイドブック2015発刊

横浜の中小企業の技術力や製品などの特長をコンパクトに紹介するカタログ集「横浜グローバルものづくり企業ガイド2015」を発行しました。

この企業ガイドには、自動車、航空・宇宙、医療・介護・福祉、環境エネルギー、アグリ、食品まで日本産業を支えている高い技術力をもった選りすぐりの横浜企業143社を掲載しています。

IDECの横浜ものづくりコーディネーターが中心となって中小企業の顧客開拓や大手企業・大学・研究機関などとの連携を促進するために活用するほか、IDEC 主催のビジネスマッチング会や新技術・新製品展示会、イベントなどで配布します。

本ガイドはIDECホームページからもダウンロードできます。



詳細は、IDEC 技術支援課 問 045-225-3733 まで

タイに横浜企業向けレンタル工場開設!

5月15日、タイのバンコク近郊にあるアジア工業団地内にレンタル工場「ヨコハマファクトリーゾーン」がオープンしました。開所式にはタイ政府関係者や横浜企業が出席し、鏡開きをして今後の発展と操業安全を祈願しました。

IDECが覚書を締結しているレンタル工場運営会社、タイコン社が日本の中小企業向けに開発したヨコハマファクトリーゾーンは、1区画550㎡の小規模賃貸工場です。現在3区画を募集中で、今年中には新たに10区画が建設される予定です。

横浜市内企業が入居する場合は、賃料の特別割引をはじめ、タイ投資委員会(BOI)に対する手続きの支援などを受けることができます。ご相談ください。



詳細は、IDEC 国際ビジネス支援課 問 045-225-3730 まで

■Column「IDEC 上海事務所レポート」

上海事務所 副所長 岩田 健

「フローラル工房 桂」(都筑区)は大学との共同研究により、フリーズドライフラワーをより鮮やかに長持ちさせる技術を開発しました。中国からこの技術の引き合いがあり、今年3月、IDEC 上海事務所は同社に「ギフト・ショー in 上海」への出展を提案。他の横浜企業とともに当事務所ブースに出展することとなりました。会場では、高島屋上海店などの日系小売店や、地元商社や小売店などのバイヤーがブースを訪れ、価格設定、物流などについて商談を行いました。また、中国の若い女性に好まれる色や

大きさなどについて、日本の製品に関心がある一般消費者の声も聞きました。

伊東代表は、「実際に出品してみると上海で販売するために自分たちに何が不足しているのかがよくわかった。このような段階で気軽に出品でき、良かった。」と話しており、本格的な中国進出に先立ちこのような機会は有意義だったようです。

IDEC 上海事務所は、工業展示会や観光見本市など、さまざまな展示会関連情報を横浜企業向けにメールマガジン「横浜産業倶楽部ニュース」でご案内しています。



IDECブース内で自社のPRができます

「横浜産業倶楽部ニュース」の登録(無料)は以下まで
yokohama@idec-sh.com

■ 各種イベントのお知らせ

2015.7～9

IDEC
YOKOHAMA

イベント名 / 会場	日程 / 時間
薬事関連相談会 / IDEC会議室 大手医療機器メーカー出身の薬事申請経験者による個別相談会を開催します。	7月15日(水) 9月16日(水) 9:30～17:00
起業チャレンジセミナー / IDEC大会議室 「創業のための基礎知識と心構え」 創業に必要な知識や心構えについて中小企業診断士(IDEC 経営相談員)が解説します。	8月11日(火) 18:00～20:00
医療機器開発相談会 / IDEC会議室 経験豊富な相談員による医療機器開発に関わる個別相談会を開催します。	8月19日(水) 9:30～17:00
横浜型地域貢献企業認定制度 制度説明会 / IDEC大会議室 横浜型地域貢献企業認定制度の目的や仕組み、認定を受けるための具体的な作業について説明します。	8月27日(木) 13:30～17:00

上記イベントはほんの一部です。詳しくはホームページ「イベントのお知らせ」をご覧ください。

IDEC 横浜
検索

メルマガ登録者 募集中!

事業などの情報をタイムリーにお知らせするために、各種メールマガジンを配信しています。IDEC ホームページ (<http://www.idec.or.jp>)「財団からの情報」の「財団発行メールマガジン」をご覧ください。

■ Information

■ IDEC 入居希望者募集

横浜金沢ハイテクセンター・テクノコア(金沢区)は、約600社が集積する金沢産業団地内に立地し、羽田空港までのアクセスは車で30分程度です。現在、研究室(全室ウェット仕様(実験レベル「P2」対応))、事務室ともに入居者を募集中で、見学は随時受付中です。お気軽にお問合せください。問 045-788-9570

その他の施設の詳細はIDECホームページ <http://www.idec.or.jp/>「施設案内」メニューから、各施設の入居募集案内をご確認ください。詳細は、IDEC施設経営部 問 045-225-3710 までお問合せを。

■ ワンストップ経営相談のご案内 - お気軽にご利用ください -

創業や経営、技術、国際ビジネスなど様々な課題について、IDEC職員や専門家が無料(一部のものを除く)でおこたえします。

窓口相談 (事前にご予約ください)

IDEC 本部や金沢産業振興センター内の地域相談窓口で、企業の皆さまの様々な経営課題についてのご相談におこたえします。

技術相談 (事前申込制・申込方法は以下参照)

大手企業 OB などの専門家が中小企業の皆さまを訪問し、技術課題の解決をお手伝いします。

国際ビジネス相談 (先着・事前申込制)

経験豊かな専門家が中国、タイ、ベトナムなどの対象地域や貿易取引など実務についてテーマごとの相談会を毎月開催します。スケジュールとお申込みは、IDEC ホームページ「イベントのお知らせ」をご覧ください。

専門家相談 (事前申込制・申込方法は以下参照)

ビジネスに関わる法務、税務、労務、IT 活用について、専門家がご相談におこたえします。

エキスパート面談 (事前申込制)

事業計画、マーケティング、新事業、経営革新に取り組む上での具体的な課題などについて専門家が直接おこたえします。

経営コンサルティング

経営革新や新規事業展開などを目指す中小企業に専門家が継続的コンサルティングを実施します。

申込方法

IDECホームページ<http://www.idec.or.jp/>の「ニーズ別事業紹介」のメニューからご希望の事業を選び、各事業のページから相談事業を選んで申し込んでください。
 なお、はじめて利用する方は、新規ユーザー登録が必要です(一部のものを除く)。

編集 後記

今号から本紙は少しずつ生まれ変わっていきます。さらに読みやすく、親しみやすい広報紙とするため、実績のある編集クリエイターの協力を得て、紙面の刷新に取り組むことにしました。今回は、あまり急激な変化は避け、全体の印象を変えない範囲で構成を工夫することとし、手始めに、天地の余白を少し狭め、記事のボリュームを増加しました。これから順次、紙面の構成にとどまらず、記事の内容についてもより読みやすい中味にするなど書き方も改善します。本紙についてご意見、ご感想をお待ちしています。